



## スイス

# シリコン製ケーキ型に有害物質の心配なし

- Konsumenteninfo AG“K-Tipp”2019年第8号  
<https://www.ktipp.ch/artikel/artikeldetail/test-die-besten-backformen-geben-kaum-heikle-stoffe-ab/>
- ドイツ商品テスト財団ホームページ <https://www.test.de/Backformen-im-Test-Spuren-von-Silikon-im-Teig-5495939-0/>

マフィン、クグロフ\*<sup>1</sup>、ハート形ケーキ等を手作りするのに便利なシリコン製焼き型。柔軟性があるため壊れにくく、取り扱いも楽だとして人気が高い台所用品である。しかし、高温で菓子を焼く際、シリコンに含まれる化学物質が生地に移行するのではないかと心配する声もある\*<sup>2</sup>。そこで、消費者情報誌“K-Tipp”では、シリコン製焼き型12商品を対象に、使い勝手のほか、揮発成分の放出や生地への移行の有無をテストした。

ドイツ語で隔週発行される同誌の定期購読者数は85万6千人に上り、人口842万人(そのうちドイツ語を母語とする者は63%)のスイスでは、驚異的な数ともいえる。フランス語圏(23%)の読者のた

めには、姉妹誌“Bon à Savoir”がある。

テストの結果、微量の化学物質の移行は、全商品でみられたという。ただし、程度はさまざまで、初回の使用時から基準値を大きく下回り、化学物質による影響の心配がまったくない商品があった一方で、3回使用後に初めて基準値を下回った製品もあったという。シリコン摂取による健康への影響は、まだ十分に解明されていないとのことだが、同誌は全商品を合格とした。特に、ミニケーキ型2商品(長方形とハート形)の総合点は、非常に高くなった。

また、使い勝手の面でも、全商品でほぼ問題ないとのことだった。食器洗い機で洗浄を50回繰り返したところ、壊れた商品はなかったという。

\*1 帽子のような形のアルザス地方の代表的な焼き菓子

\*2 参考：ウェブ版「国民生活」2015年3月号「海外ニュース」参照 [http://www.kokusen.go.jp/wko/pdf/wko-201503\\_10.pdf](http://www.kokusen.go.jp/wko/pdf/wko-201503_10.pdf)



## ドイツ

# 編集者の家庭で包装ごみ削減にチャレンジ

- 商品テスト財団「テスト」2019年10月号  
<https://www.test.de/Verpackungsmuell-Wie-viel-Muell-lasst-sich-vermeiden-Ein-Experiment-5519425-0/>
- 同2019年7月号 <https://www.test.de/Natuerliches-Mineralwasser-im-Test-4258945-0/>
- 連邦環境庁ホームページ <https://www.umweltbundesamt.de/umwelttipps-fuer-den-alltag/essen-trinken/trinkwasser#textpart-2>

2016年の統計によると、ドイツの家庭では1人当たり年間103.5kgの包装ごみを排出し、そのほとんどが食料品に由来するという。商品テスト財団『テスト』誌の編集者B氏も、自身の家庭から出る包装ごみの多さに啞然とする1人である。夫、10代の子ども2人とベルリンで暮らすB氏が1週間に出す包装ごみは60ℓ袋3つ分になり、特に目立つのがプラスチックだという。そこで、包装ごみをどのくらい減らせるか、自身の家庭で実験してみた。

まず、スーパーのセルフ棚に並ぶ肉・魚・チーズのほとんどすべて、野菜・果物の3分の2程度がパック済みであることから、自宅より容器・袋を持参して、量り売りコーナーで購入することにした。ところが、衛生上の理由から、持参した蓋付き容器による肉類購入を断られたり、野菜・果物の量り売りで

は、持参した木綿袋の重量を差し引いてくれないことがあった。しかも、ばら売り品はパック品に比べて高くつくことが多かったという。

次に着目したのが日常の飲み水である。連邦環境庁は水道水の安全性を強調しているが、ドイツでは水道水をそのまま飲む習慣がなく、ミネラルウォーター(炭酸入りが主流)をケース買いする家庭が多い。水道水を飲めば環境にも財布にもやさしいと考えたB氏が炭酸水製造機を購入し、水道水利用に切り替えたところ、大量の容器が削減できたという。

さらに、大容量品や詰め替え品等も利用することで、最終的に重量比75%の包装ごみを削減できたが、今までの買い物より時間とお金がかかる結果となった。また今回、内容物を守るために不可欠な包装が多い事実にも気づいたとのことである。



## オーストラリア

## 今年のションキー賞を発表

● CHOICEホームページ <https://www.choice.com.au/shonky-awards> (ほか)

CHOICE(オーストラリア消費者協会)は2019年10月、14回目の「ションキー賞」の受賞者を発表した。「ションキー」とはオーストラリアなどの口語で「信用できない、粗悪な」ものを指す。性能が著しく劣る、基準違反などで消費者に不利益や危害を与えた製品や企業を厳しく批判する目的で同賞を公表している。

毎年、消費者から多数の候補が寄せられ、CHOICEが実際にテスト、調査して決定する。フェイクレビューや悪徳セールスマンが横行する今こそ、独自の声で真実を明らかにする役目があるとCHOICEは述べている。2019年の受賞は次の6件。

● 金融サービスの最大手：転職等で放置された年金基金の休眠口座100万件以上の手数料を長年徴収し、年金受取額を大きく減少または消滅させた。

● 電子機器等の大手通販サイト：顧客第一を掲げながら、不良品の返品・返金になかなか応じない。

● 自然派志向の食品メーカー：政府制定「健康指数4つ星」付きの子ども向けチョコ風味シリアルは表示されていない糖分が22%以上あり、この製品で1日の食物繊維を摂取すると糖分が62gにもなる。

● 世界最大の家具製造販売会社の冷蔵庫：「シンプル機能で手頃な価格」というが商品テストで冷却性能が劣悪。また、表示と異なり、維持費は高つく。

● 民間医療保険市場のシェア3割の保険会社：保健省が2019年導入した「金・銀・銅・基礎」の4段階の保険料と保障を比較すると、最下部「基礎」が「銅」より保険料は高いのに保障範囲は限定的。

● ペット保険全般：毎年の更新ごとに勝手な条件変更や保険料の大幅値上げなど、不公正極まりない。



## アメリカ

## 新車アセスメントプログラムの更改に期待

● NHTSAホームページ <https://www.nhtsa.gov/press-releases/ncap-upgrades-coming>

● CRホームページ <https://www.consumerreports.org/car-safety/federal-car-crash-testing-needs-major-overhaul-safety-advocates-say/>  
<https://www.consumerreports.org/car-safety/crash-test-bias-how-male-focused-testing-puts-female-drivers-at-risk/> (ほか)

NHTSA(アメリカ運輸省道路交通安全局)はU.S. NCAP(以下、NCAP:新車アセスメントプログラム)創設40周年に当たる2019年10月、プログラムの大幅な更改を2020年に実施すると発表した。

1979年創設のNCAPは、人型ダミーを乗せた新車を壁に衝突させて安全性を測定するという、当時としては画期的なプログラムで、消費者の安全性評価の指標となり、安全性の5段階星マーク表示は広く普及した。メーカーに車の安全性を向上させた貢献度は大きいとNHTSAは誇るが、いまだ交通事故の犠牲者は国内で1日100人以上に上る。この10年間、NCAPは進化せず、最近では簡単に合格できる状態で、本当に安全な車が区別できない。

NHTSAは2015年に衝突回避テクノロジー等を含む大きな更改計画を発表したが、メーカーの意向

などで更改は進んでいない。また、統計では交通事故の死傷者は男性のほうが多いが、これは男性が運転する機会が多く違反しやすいためで、実際には、事故時にシートベルト着用の運転席および助手席の女性が死亡する可能性が17%も高いこと、正面衝突で負傷する可能性は女性のほうが73%も高いことが分かったという。メーカーが男性のダミーのみを使って安全性を開発してきた弊害だとするCR(コンシューマーレポート)は、女性と子どもの特性に適したダミーの導入を急ぐべきと強調する。

NCAPに続き多くの国や地域のNCAPも創設された。ワシントンの安全擁護団体は報告書で、ユーロNCAPで実施している最新テクノロジーを駆使したNCAPにはない14項目の安全性評価を紹介し、NCAPの改善を要請した。